

# お金のデザイン・リキッド・オルタナティブ・ファンド (円ヘッジあり)

追加型投信／内外／資産複合

## 交付運用報告書

第3期(決算日2022年9月12日)

作成対象期間(2021年9月11日～2022年9月12日)

第3期末(2022年9月12日)	
基準価額	13,068円
純資産総額	8,335百万円
第3期	
騰落率	8.8%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「お金のデザイン・リキッド・オルタナティブ・ファンド(円ヘッジあり)」は、このたび第3期の決算を行いました。当ファンドは、主として投資信託証券に投資し、リスクを最小限に抑えつつ、長期的に安定した収益の確保と投資信託証券財産の成長を目指して運用を行います。当期につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。

○右記弊社ホームページの「ファンド情報」等から当ファンドのファンド名を選択することにより、当ファンドの「運用報告書(全体版)」を閲覧およびダウンロードすることができます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

## お金のデザイン

東京都千代田区紀尾井町1丁目3番

<照会先>

電話番号：03-6629-7090

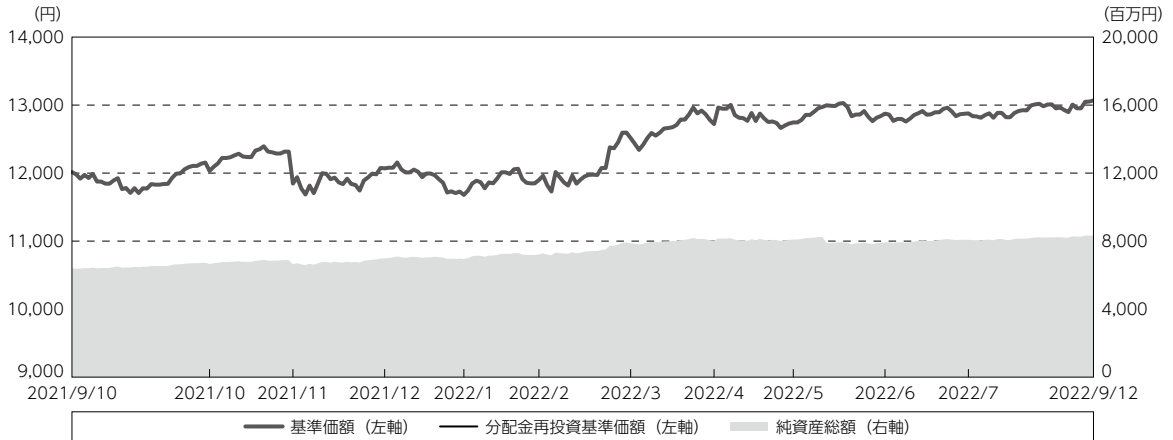
(受付時間：委託会社の営業日の9：30～17：00)

ホームページ：<https://www.money-design.com/>

## 運用経過

### 期中の基準価額等の推移

(2021年9月11日～2022年9月12日)



期首：12,015円

期末：13,068円(既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：8.8%(分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首(2021年9月10日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は表示していません。

### ○基準価額の主な変動要因

お金のデザイン・リキッド・オルタナティブ・ファンドは、当期(2021年9月11日～2022年9月12日)+8.76%のリターンとなりました。当ファンドに高位に組み入れている、DBIリキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPYクラスAシェアーズのパフォーマンスが上昇したため、当ファンドにプラスの寄与となりました。

1万口当たりの費用明細

（2021年9月11日～2022年9月12日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	82 円	0.664 %	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(75)	(0.608)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	( 4)	(0.033)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	( 3)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	9	0.072	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	( 1)	(0.010)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	( 7)	(0.062)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	91	0.736	
期中の平均基準価額は、12,332円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

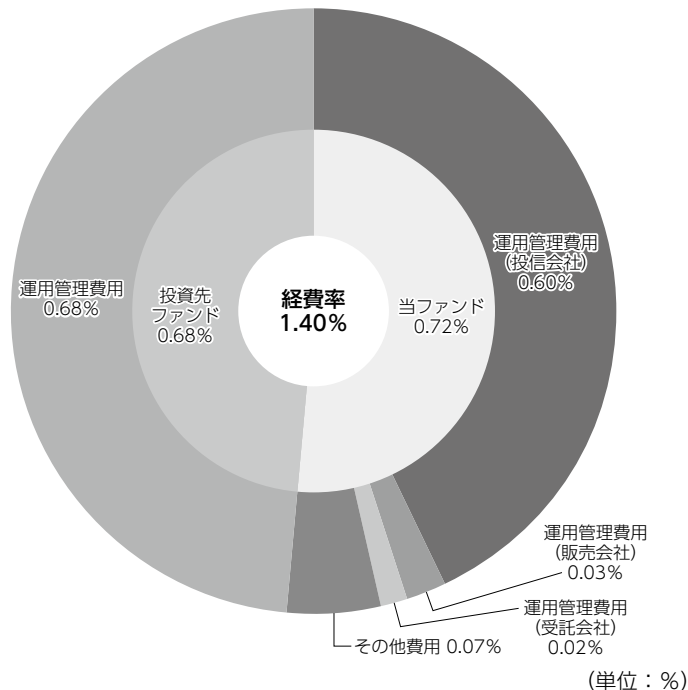
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○経費率 (投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。)

期中の運用・管理にかかった費用の総額 (原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。) を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額 (1口当たり) を乗じた数で除した経費率 (年率) は1.40%です。



<b>経費率 (①+②)</b>	<b>1.40</b>
①当ファンドの費用の比率	0.72
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.68

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券 (マザーファンドを除く。) です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

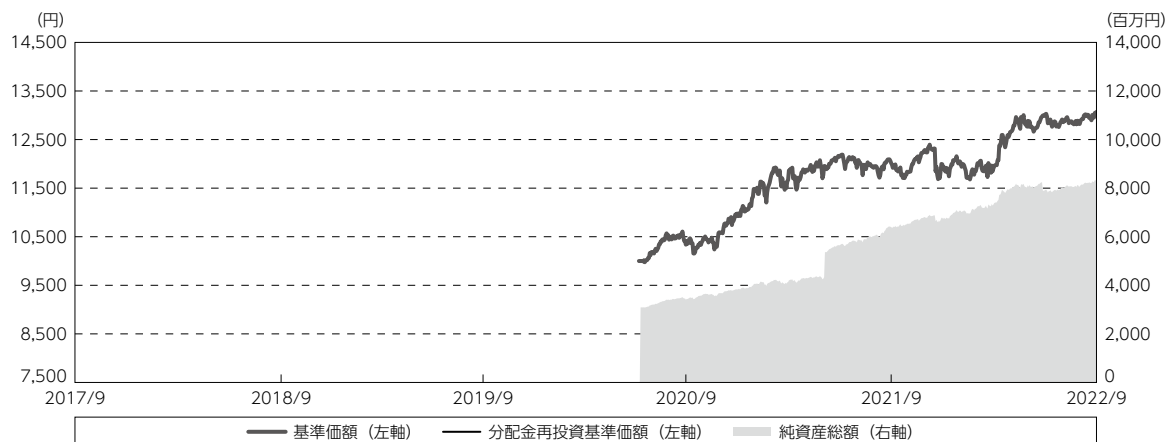
(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2017年9月11日～2022年9月12日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 当ファンドの設定日は2020年6月19日です。

	2020年6月19日 設定日	2020年9月10日 決算日	2021年9月10日 決算日	2022年9月12日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,337	12,015	13,068
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	3.4	16.2	8.8
純資産総額 (百万円)	0.1	3,408	6,392	8,335

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。ただし、単位未満の場合は小数で記載しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2020年9月10日の騰落率は設定当初との比較です。

(注) 当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は表示しておりません。

**投資環境**

（2021年9月11日～2022年9月12日）

2021年はヘッジファンドや多くのアクティブマネージャーにとって厳しい年でした。

投資家は市場で激しいボラティリティに直面しました。テクノロジー株、ミーム株、SPAC、および仮想通貨は一晩で乱高下し、ロング投資家とショート投資家の両者を不利な状況に追い込みました。新型コロナウイルス感染症の拡大は沈静化した後、再拡大し、その後変異株も現れ、バリュー投資家と成長株投資家を混乱させました。中国はテクノロジー業界に対する厳格な取り締まりを行い、一部の株式が数日間で80%も下落しました。FRB（米連邦準備制度理事会）は、長期的緩和から積極的引き締めへと急転し、政策ミスと暴走するインフレに賭けるマクロ投資家に打撃を与えました。その結果、ヘッジファンドがコロナショックからの回復とバリューローテーションに両方で早い段階で取り組み、歴史的に好調だった2020年を経て、2021年は、「2歩前進して、1歩後退」のように特徴付けられます。

2022年の第1四半期は、株式と債券の両方が不安定なリターンで始まり、過去1年間に、インフレ、金融引き締め、そして現在も進行中のロシアによるウクライナ紛争という3つの主要なマクロ・レジームシフトが発生し、前四半期に勢いを増しました。「価格織り込み済み」のものはなく、すべてが初期段階にあるようです。この新しい世界では、市場参加者は、政策立案者、市場参加者、生産者、消費者の行動を同時に予測する必要があります。さらには、すべての二次効果と三次効果を予測する必要があります。2年物国債利回りは、2022年は約0.70%で始まり、3ヶ月で約2.4%に上昇しました。ブルームバーグ債券総合指数は-6.2%と、全体的に下落したものの、社債は金利上昇と信用スプレッドの拡大が重なり一層下落しました。ウクライナ紛争は、現在の商品供給不足問題を悪化させ、各国が競ってサプライチェーンの国内化を急ぎました。株式は大幅な下落に見舞われた後、弱気相場の上昇と皮肉られた印象的な回復を見せました。

2022年の第2四半期には、FRBの引き締めが本格化しました。2年物国債利回りは、四半期末で約3%でした。これは、前年の11倍です。株式は、2022年第1四半期には驚くほどの回復力を見せましたが、この期で真の弱気相場となり、そして市場でバブルの様相を見せていた領域—テクノロジー株、仮想通貨—が急落しました。ドルに対する日本円とユーロの驚異的な下落は、2010年代後半にはほとんど存在しなかったマクロ取引機会の記憶を再燃させました。

2022年の第3四半期には、FRBは、相応の経済的痛みを伴おうとも、進行中の金融引き締めを通じてインフレと戦う、というコミットメントを繰り返しました。株式と債券は約4%下落しましたが、米ドルは上昇を続けました。今後の景気後退の可能性が高まるにつれ、株式市場が企業収益の劣化を適切に織り込んでいるかどうか、また債券市場が借り換えとデフォルトリスクを考慮に入れているかどうか注目が集まっています。著名なバリュー投資家で懐疑論者であるジェレミー・グランサムは、過去10年間の「スーパーバブル」の崩壊はまだ終わっていないと大声で宣言しました。ヨーロッパの状況は、冬が近づくにつれて悪化の一途をたどっているように見え、新興市場は、ドル高と食品関連をはじめとするコモディティ価格の高騰による逆風に直面しています。ヘッジファンドは保守的なポジションを維持しており、7月の弱気相場の上昇を逃したことで批判されていますが、6月と8月の大部分のドローダウンを回避しています。

**当ファンドのポートフォリオ**

（2021年9月11日～2022年9月12日）

当ファンドは、主として外国投資信託、DBiリキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPYクラスAシェアーズ（以下「DBiポートフォリオ」）に投資し、リスクを最小限に抑えつつ長期的に安定した収益の確保と信託財産の成長を目指して運用を行います。DBiポートフォリオの詳細は以下のとおりです。

**ヘッジファンド・ポートフォリオ（DBiポートフォリオの約60%を構成）**

ヘッジファンド・ポートフォリオは、当期ドルベースリターンは約+0.3%であり、MSCIワールドの約-13%を大きく上回っています。

ヘッジファンド・ポートフォリオに使用されるレプリケーション・モデルは、株式ロング／ショート、レティブ・バリュー、およびイベント・ドリブンの上位50の最大手ヘッジファンドから構成されるターゲット・ファンドを対象に、株式、金利、通貨市場全体でのこれらのファンドのウェイトを利用し、コア・ファクターを抽出するように設計されています。

ヘッジファンド・ポートフォリオでは、資産配分に起因する超過収益を獲得するために、長期的な視点でポートフォリオのシフトを行う傾向があります。しかし、今期においてはマクロ環境の大きな変化に伴い、このポートフォリオは年間を通じていくつかの大きな調整を実施しました。当期初めは、インフレ懸念は始まったばかりで、FRB（米連邦準備制度理事会）の利上げへの姿勢は強硬なものではなく、したがって、ポートフォリオでは米ドルと米国債のヘッジは実施していませんでした。その後利上げが始まると、ポートフォリオは米国債のショートポジションと米ドルのロングポジションにシフトしました。これらの調整により、パフォーマンスは大幅に向上しました。また、全体的な株式リスクを半分に減少し、大型のグローバル株が大幅に下落する中で、中小型株のウェイトを高くしたことも損失回避に役立ちました。

**CTAポートフォリオ（DBiポートフォリオの約40%を構成）**

CTAポートフォリオは、当期ドルベースリターンは約+27%となりました。一方、SGCTAヘッジファンド・インデックスは約+21%でした。

CTAポートフォリオは上位20のマネージド・フューチャーズ・ファンドを複製することにより、単一ファンドのテールリスクを軽減しつつ、ファクターのアロケーションによりリターンの獲得を目指します。

ほぼすべての資産クラスがトレンドを形成し、マネージド・フューチャーズにとって躍動する期間でした。FRBが2022年を通じて急速に金利を引き上げる一方、日銀が金利を低く抑えることにコミットしたため、CTAポートフォリオは当期を通じて確信度の高い日本円ショートポジションを取りました。世界的な供給ショックに加えて、ウクライナ紛争により、石油が1バレル70ドル台から120ドル台まで上昇する中、期間中、原油をロングポジションとしていたため、パフォーマンスは大幅に向上し、原油史上最高値から下落し始めた段階で、ポートフォリオはポジションをすぐに調整した結果、リターンを維持できました。また、ドルに対するユーロのショートポジションとイールド・カーブ全体にわたる米国債の売りポジションも、パフォーマンス向上に貢献しました。一方で、株式ポジションからのリターンはパフォーマンスを低下させましたが、前述の調整等が損失を抑えたため、最終的なパフォーマンスはMSCIワールドを上回っています。

**当ファンドのベンチマークとの差異**

（2021年9月11日～2022年9月12日）

当ファンドは、運用方針に対して適切に比較できる指数がないため、ベンチマークならびに参考指数は設定しておりません。

**分配金**

（2021年9月11日～2022年9月12日）

当期の分配金は、長期的な投資信託財産の成長を追求する観点から無分配とさせていただきます。また、収益分配に充てなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

**○分配原資の内訳**

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第3期
	2021年9月11日～ 2022年9月12日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	3,067

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。



## 今後の運用方針

主要投資ファンドであるDBiリキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPYクラスAシェアーズ（以下「DBiポートフォリオ」）は、伝統的な60/40の株式と債券のポートフォリオと比較して、リターンを改善し、多様なリスク管理機能（戦略間の分散、単一マネージャー・リスクの排除、日々の流動性、総手数料の低さ、資産負債リスクの排除、カウンターパーティリスクの排除等）により、ボラティリティを低減し、ドローダウンを抑制する特性を有したポートフォリオと考えています。今後も、ヘッジファンドの多様なポートフォリオのリターンを忠実に提供し、テールリスクを抑えながらアルファを提供することを目指します。

## お知らせ

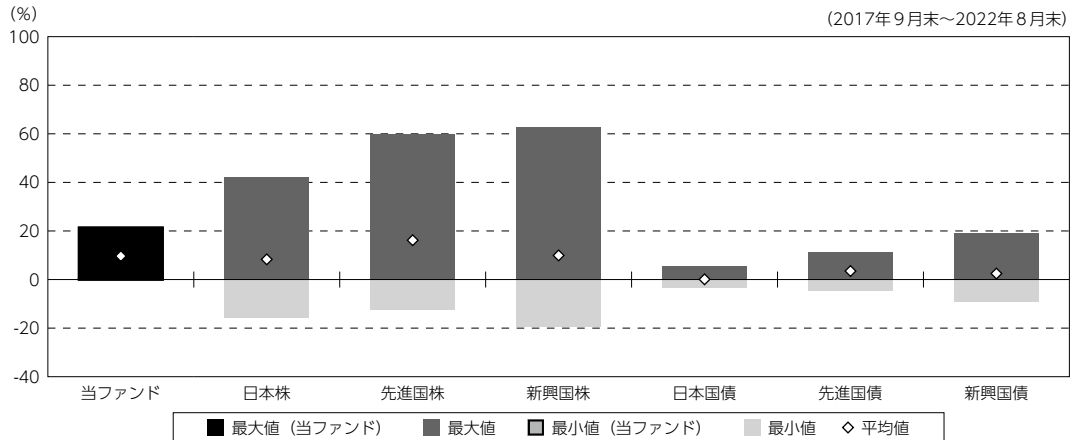
該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	原則として、無期限です。(設定日：2020年6月19日)
運用方針	主として投資信託証券に投資し、リスクを最小限に抑えつつ、長期的に安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	ケイマン諸島籍の外国投資法人「DBi リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPY クラス A シェアーズ」円建て投資信託証券（運用：ダイナミック・ベータ・インベストメンツ・エルエルシー）ならびに国内上場投信「NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI 総合連動型上場投信」を主要投資対象とします。
運用方法	主として米国・欧州の上場先物市場とETF（上場投資信託証券）に実質的な投資を行い、ヘッジファンドリサーチ社（HFR）が公表する預かり資産上位50社で構成されるヘッジファンド・ポートフォリオのパフォーマンスならびにマネージド・フューチャーズ業界を代表する上位20社のCTAポートフォリオのパフォーマンスの複製を目指した運用を行います。
分配方針	毎年9月10日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づき収益分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	21.4	42.1	59.8	62.7	5.4	11.4	19.3
最小値	0.3	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 3.5	△ 4.5	△ 9.4
平均値	9.6	8.3	16.2	9.9	0.1	3.5	2.5

- (注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- (注) 2017年9月から2022年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2021年6月以降の年間騰落率を用いております。
- (注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。
- (注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

各資産クラスの指数

- 日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
- 先進国株・・・MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)
- 新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)
- 日本国債・・・NOMURA-BPI国債
- 先進国債・・・FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)
- 新興国債・・・JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

※詳細は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

### 組入資産の内容

(2022年9月12日現在)

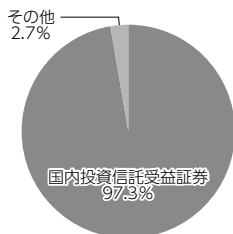
#### ○組入上位ファンド

銘柄名	第3期末
	%
DBI リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPYクラスA シェアーズ	97.3
NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI 総合連動型上場投信	0.0
組入銘柄数	2銘柄

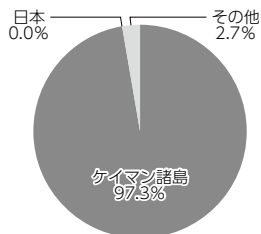
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

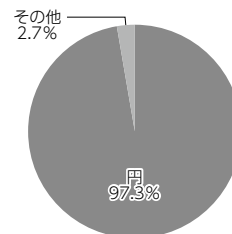
#### ○資産別配分



#### ○国別配分



#### ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券及び国内投資証券には外国籍（邦貨建）の証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

### 純資産等

項目	第3期末
	2022年9月12日
純資産総額	8,335,077,682円
受益権総口数	6,378,237,727口
1万口当たり基準価額	13,068円

(注) 期中における追加設定元本額は2,209,506,146円、同解約元本額は1,152,064,639円です。

## 組入上位ファンドの概要

### DBi リキッド・オルタナティブ・ファンド・リミテッド-JPY クラス A シェアーズ

【基準価額の推移】

(2020年6月23日～2022年9月9日)



【1万口当たりの費用明細】

(2020年6月23日～2022年9月9日)

1万口当たりの費用明細に該当する情報を取得できないため、掲載しておりません。

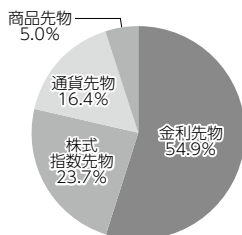
【組入上位10銘柄】

	銘柄名	比率
1	Eurodollar	27.5%
2	Japanese Yen	11.7
3	Dollar Index	9.6
4	US Treasury Bond	7.1
5	2 Year Treasury Note	6.6
6	E Mini MSCI EAFE	5.1
7	Euro/USD	4.7
8	Ultra Treasury Note	4.6
9	US 10 Year Note	4.5
10	30-Day Fed Funds Rate	4.4
組入銘柄数		18銘柄

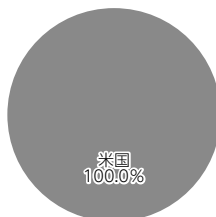
(注) 比率は、2022年3月31日時点のグロス・エクスポージャー合計額に対する個別銘柄のグロス・エクスポージャーの割合です。

(注) 円クラスの為替ヘッジ分のエクスポージャーを除いています。

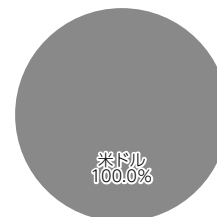
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

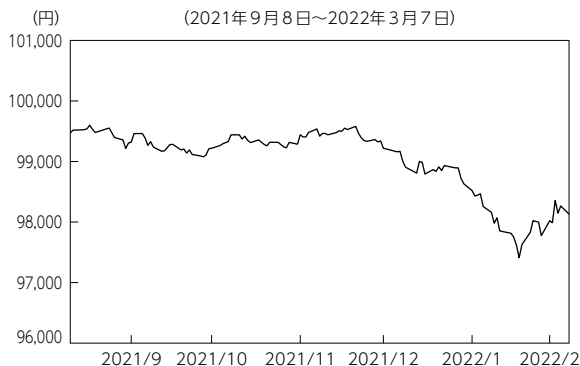


(注) 比率は、2022年3月31日時点のグロス・エクスポージャー合計額に対する資産別先物のグロス・エクスポージャーの割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

NEXT FUNDS 国内債券・NOMURA-BPI 総合連動型上場投信

【基準価額の推移】



【100口当たりの費用明細】

(2021年9月8日～2022年3月7日)

当該期間の100口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

以下は「国内債券NOMURA-BPI総合 マザーファンド」の決算日時点の内容です。

【組入上位10銘柄】

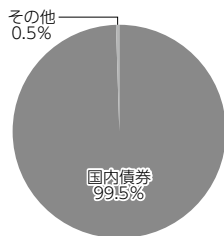
	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国(地域)	比率 %
1	国庫債券 利付(5年)第135回	国債	円	日本	1.2
2	国庫債券 利付(10年)第342回	国債	円	日本	1.1
3	国庫債券 利付(10年)第360回	国債	円	日本	1.1
4	国庫債券 利付(10年)第351回	国債	円	日本	1.1
5	国庫債券 利付(10年)第341回	国債	円	日本	1.0
6	国庫債券 利付(10年)第361回	国債	円	日本	0.9
7	国庫債券 利付(10年)第348回	国債	円	日本	0.9
8	国庫債券 利付(10年)第334回	国債	円	日本	0.9
9	国庫債券 利付(10年)第352回	国債	円	日本	0.9
10	国庫債券 利付(5年)第133回	国債	円	日本	0.8
組入銘柄数			1,076銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

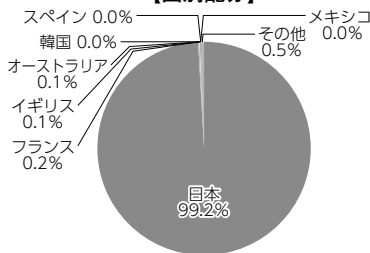
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

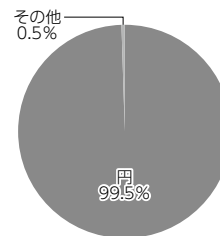
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## ○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

### ○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。

### ○MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### ○MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### ○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

### ○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

### ○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。